

科目名	オーケストレーション (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	前期に学習したプラスアンサンプルの知識と理解のうえに、後期では主にクラシックのオーケストラスコアをひもときながら、オーケストレーションの基礎的な書法を学習するとともに、ポップス、劇版、サウンドデザインなどのジャンルにおいてDAWでのハイブリッドなオーケストレーションを作品に反映できることを目指します。						
到達目標	木管楽器と弦楽器、打楽器の特性、アーティキュレーションについて理解がある。 コードネームから様々なボイシングと、メロディラインを作る知識がある。 オーケストラの書法について基礎的な理解があり、譜面を書くことができる。 DAWでのオーケストラサウンド、サウンドデザイン要素とのハイブリッドな作品を制作できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。振り返りと自習	
2		講義・演習	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。振り返りと自習	
3		講義・演習	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
4		講義・演習	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習	
5		講義・演習	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
6		講義・演習	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習	
7		講義・演習	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
8		講義・演習	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習	
9		講義・演習	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
10		講義・演習	サウンドデザインの考察① 生楽器以外のシンセやサウンドFXの素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。	サウンドデザインの考察① 生楽器以外のシンセやサウンドFXの素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。振り返りと自習	
11		講義・演習	サウンドデザインの考察② オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。	サウンドデザインの考察② オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。振り返りと自習	
12		講義・演習	サウンドデザインの考察③ サウンドデザインの素材のみで作られたトラックの分析ができる。	試験準備	
13		講義・演習	これまで学習したオーケストラの基礎的な処方について確認する試験を実施するとともに、アレンジ作品の提出。	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	サウンドプロデュース (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	今関 邦裕
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1)授業態度・姿勢100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	スタジオワークでの作法① ミックスルーティングの作り方①	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	スタジオワークでの作法② ミックスルーティングの作り方②	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践1	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践2	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践3	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	マスタリング基礎	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	マスタリング応用	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践4	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践5	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践6	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践7	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践8	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践9	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	サウンドプロデュース (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	今関 邦裕
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点からアレンジやレコーディングの重要性を学ぶ。作曲コースのコンペ授業での反省とアドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を学ぶ。ジャンルという枠にとらわれず、音楽の聴き方を学び様々な音楽に触れる。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽曲が伝えたい事を作り手の立場になって一・制作者になる。楽曲が持つ可能性を広げる。						
評価方法と基準	1)授業態度・姿勢100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践10	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践11	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践12	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践13	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践14	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践15	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践16	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践17	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践18	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践19	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践20	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践21	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践22	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Mastering Technique Basic (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽制作におけるマスタリングの基本的な知識と技術を、DAWや各種プラグインを用いて体系的に学ぶ。マスタリングに必要な音響理論、ツールの操作方法、音質評価、フォーマット別納品要件など、実務レベルで求められる要素を段階的に習得する。						
到達目標	・マスタリングの役割と工程を理解し、他工程(ミックス、配信)との関係を説明できる ・EQ・コンプ・リミッター・マルチバンド処理などの基本的なマスタリングツールを目的に応じて使用できる ・音源のステレオバランス、ラウドネス、音質を評価し、改善点を見つけられる ・目的に応じたマスタリングチェーンを自分で構築し、処理内容を言語化できる ・CDや配信ストリーミングなど、メディア別の納品基準を理解し、正しく書き出せる ・マスタリング済み音源を自信を持って発表でき、ポートフォリオとして提出できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション／マスタリングの全体像	「自分の考えるマスタリングとは何か？」A4レポート1枚(300字以上)提出
2		講義・演習	マスタリングの歴史と音楽産業との関係	配信プラットフォームのマスタリング仕様を調べ、要点をまとめる(表形式)
3		講義・演習	マスタリング環境の構築①(モニタリング)	自宅・学校のモニタリング環境を写真付きで記録し、改善点を考察(提出)
4		講義・演習	マスタリング環境の構築②(DAWとプラグイン)	自分が使うマスタリング用ツールのリスト作成＋基本設定をスクショ提出
5		講義・演習	音質評価とリファレンス音源の聞き方	市販音源(3曲)のリファレンス分析(周波数・音圧・ステレオ感)レポート提出
6		講義・演習	実習①(自分のミックスを持参し試しにマスタリング)	自分のミックス音源を使って、簡単なマスタリング処理(EQ＋LIM)を実施・提出
7		講義・演習	EQ(イコライザー)の基礎	EQを使って「不要帯域のカット」と「補正EQ」の2パターンを作成・比較提出
8		講義・演習	実習②(EQによる音色補正と試聴)	別の音源(配布素材)をマスタリングEQ処理。A/B比較音源を提出
9		講義・演習	コンプレッサーの役割とセッティング基礎	同じ素材で「軽いコンプ」と「強めのコンプ」の2種類を適用・提出
10		講義・演習	実習③(コンプのかけ比べと評価)	複数の設定でLUFS値・ピーク値を比較。数値＋音源で提出
11		講義・演習	リミッターとラウドネス(LUFS)管理	曲を-14LUFSに収めた状態と-9LUFSの2パターンで提出。メモ付き
12		講義・演習	実習④(マスター音圧の調整と確認)	今までの処理を統合し、ワンループ(60秒)をマスタリングして提出
13		講義・演習	マスタリングチェーンの考え方	自分なりのマスタリングチェーン設計図を作成(図解＋説明)
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Mastering Technique Basic (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽制作におけるマスタリングの基本的な知識と技術を、DAWや各種プラグインを用いて体系的に学ぶ。マスタリングに必要な音響理論、ツールの操作方法、音質評価、フォーマット別納品要件など、実務レベルで求められる要素を段階的に習得する。						
到達目標	・マスタリングの役割と工程を理解し、他工程(ミックス、配信)との関係を説明できる ・EQ・コンプ・リミッター・マルチバンド処理などの基本的なマスタリングツールを目的に応じて使用できる ・音源のステレオバランス、ラウドネス、音質を評価し、改善点を見つけられる ・目的に応じたマスタリングチェーンを自分で構築し、処理内容を言語化できる ・CDや配信ストリーミングなど、メディア別の納品基準を理解し、正しく書き出せる ・マスタリング済み音源を自信を持って発表でき、ポートフォリオとして提出できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	実習⑤(簡単なマスタリングチェーン構築)	実際に組んだチェーンを用いてマスタリングした音源(配布素材)提出
2		講義・演習	マルチバンド処理の基本	MBコンプ適用の音源と、適用前の比較音源を提出(A/B比較)
3		講義・演習	実習⑥(実際のミックス音源を使って処理)	EQ/コンプ/MB/リミッター含むフルチェーンの60秒マスタリング音源
4		講義・演習	ステレオイメージと空間の広がり調整	MS処理やステレオ拡張を適用したバージョンと元のバージョンを提出
5		講義・演習	中間プレゼン/学生が自分で行ったマスタリング発表+講評	自分でマスタリングした1曲を発表(MP3提出+簡単な処理解説メモ)
6		講義・演習	マスタリングとメディア形式の関係	各納品形式(CD用, 配信用, YouTube等)の仕様を1枚の資料にまとめる
7		講義・演習	配信プラットフォームごとの仕様(Spotify, Apple, YouTube etc.)	Spotify, Apple, YouTubeのラウドネス基準を表で比較(LUFS・TPなど)
8		講義・演習	マスタリングのトラブルシューティング①(歪み・ノイズ)	提出された課題音源のうち、問題のあるものを1つ選び、改善案をレポート
9		講義・演習	マスタリングのトラブルシューティング②(ラウドネス・バランス)	ノイズ除去やラウドネス調整を実践。問題音源を修正して提出
10		講義・演習	実習⑦(実案件を想定した課題提出)	「他人のミックス音源」(配布)をマスタリングして納品音源として提出
11		講義・演習	成果発表リハーサル(講師からのフィードバック)	Week10の課題に関して、書き出し設定/ラウドネス/処理内容を文書化し提出
12		講義・演習	成果発表会(マスタリング済音源をプレゼン+試聴)	マスタリング音源(フル尺 or 2分以内)を発表(講師+クラス講評)
13		講義・演習	総まとめ・レビュー・ポートフォリオ提出と今後の学習指針	全課題のポートフォリオを1ファイルにまとめて提出(処理解説つき)
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として、現実に近い環境・形態で、限りなくプロクオリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける						
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:50%、作品提出:50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	テーマ決定・チーム編成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	10分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	20分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールリングを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として、現実に近い環境・形態で、限りなくプロクオリティに近い音楽アルバム制作を出来る様に力をつける						
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール作成・ミュージシャン発注等を総合した「トータルプロデュース」の力を発揮できる						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:50%、作品提出:50%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	30分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	40分以上の全アレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	全作品ミキシング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	マスタリング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	ジャケット・パッケージ制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールリングを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Digital Foundation (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	中田雅敏 増田祐生
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 講義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。						
到達目標	Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタルポートフォリオを所持できるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(レタッチ中心) Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(ベジェ曲線操作、デザイン中心) STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ(web)の運営ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション Keynote(自己紹介PPT)を使用して資料を作成しプレゼンする	【事前動画説明】macの基本操作方法 Keynoteの機能説明と基本操作方法	
2		講義・演習	ワードエクセル基本操作理解。ワード(ビジネス文章)/エクセル(タイム テーブル)提出 優秀資料のプレゼン発表する	【事前動画説明】Word(文書作成)、Excel(表の作成、表計算)の操作 方法	
3		講義・演習	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解、基本操作(ワークス ペース、ツールバー、パレット、画面拡張、新規作成、保存)【Ai】図形	【事前動画説明】PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツール バー、パレットなど基本操作方法	
4		講義・演習	【Ai】基本操作 選択、図形、パウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダ イレクト選択ツール、スタイルズ、パスファインダ、整列、テキスト入力、グループ化、ベ ジェ曲線、スウォッチ、模様、グラデーション	【事前動画説明】Aiを使用して作れるものの紹介、操作方法	
5		講義・演習	【Ps】レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像 度、フォーマット	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法	
6		講義・演習	【Ai】配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデ ザインとは何か。(コンセプト～ラフ作成・色理解～提案～レイアウトデザイン ～ブラッシュアップ)	【事前動画説明】センスを身につけるために見てほしいものの解説。イベント フライヤーやアーティストサイトのデザイン紹介と解説。好きなデザイン画像 やURL、フライヤーや雑誌、グッズなどを収集する。	
7		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク	【事前動画説明】ロゴ制作の操作方法 演習: イベントロゴ案を授業前に数種類考えておく。	
8		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成(レイアウトデザイン～ブラッシュ アップ) よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる	【事前動画説明】入稿方法。作成したフライヤーデータを印刷会社に入 稿できるデータに整える。画像形式、データ名、トリムマーク、PDF	
9		講義・演習	【Ps】【Ai】オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツ ール、アートボード、保存形式を指定して書き出し	【事前動画説明】LINEスタンプの登録方法。事前にLINEスタンプをLINE クリエイターズマーケットへ登録する。	
10		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用で きるデータ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。	【事前動画説明】素材の著作権について。いらすとやの素材など、商 用に利用できるものの検索方法とDL方法	
11		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP 画像と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。	【事前動画説明】ポートフォリオサイトの紹介。どういふ点がポイントに なるのか、どのような機能が使用されているかを解説、操作方法。	
12		講義・演習	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させ る。	【事前動画説明】ポートフォリオの中に入れる写真や動画の選定、レ タッチ、保存形式指定など下準備を整える。	
13		講義・演習	ポートフォリオサイトの提出 到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考える		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Digital Foundation (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	中田雅敏 増田祐生
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 講義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。						
到達目標	Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタルポートフォリオを所持できるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(レタッチ中心) Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(ベジェ曲線操作、デザイン中心) STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ(web)の運営ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション Keynote(自己紹介PPT)を使用して資料を作成しプレゼンする	【事前動画説明】macの基本操作方法 Keynoteの機能説明と基本操作方法	
2		講義・演習	ワードエクセル基本操作理解。ワード(ビジネス文章)/エクセル(タイム テーブル)提出 優秀資料のプレゼン発表する	【事前動画説明】Word(文書作成)、Excel(表の作成、表計算)の操作 方法	
3		講義・演習	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解、基本操作(ワークス ペース、ツールバー、パレット、画面拡張、新規作成、保存)【Ai】図形	【事前動画説明】PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツール バー、パレットなど基本操作方法	
4		講義・演習	【Ai】基本操作 選択、図形、パウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダ イレクト選択ツール、スタイルズ、パスファインダ、整列、テキスト入力、グループ化、ベ ジェ曲線、スウォッチ、模様、グラデーション	【事前動画説明】Aiを使用して作れるものの紹介、操作方法	
5		講義・演習	【Ps】レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像 度、フォーマット	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法	
6		講義・演習	【Ai】配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデ ザインとは何か。(コンセプト～ラフ作成・色理解～提案～レイアウトデザイン ～ブラッシュアップ)	【事前動画説明】センスを身につけるために見てほしいものの解説。イベント フライヤーやアーティストサイトのデザイン紹介と解説。好きなデザイン画像 やURL、フライヤーや雑誌、グッズなどを収集する。	
7		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク	【事前動画説明】ロゴ制作の操作方法 演習: イベントロゴ案を授業前に数種類考えておく。	
8		講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成(レイアウトデザイン～ブラッシュ アップ) よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる	【事前動画説明】入稿方法。作成したフライヤーデータを印刷会社に入 稿できるデータに整える。画像形式、データ名、トリムマーク、PDF	
9		講義・演習	【Ps】【Ai】オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツ ール、アートボード、保存形式を指定して書き出し	【事前動画説明】LINEスタンプの登録方法。事前にLINEスタンプをLINE クリエイターズマーケットへ登録する。	
10		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用で きるデータ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。	【事前動画説明】素材の著作権について。いらすとやの素材など、商 用に利用できるものの検索方法とDL方法	
11		講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP 画像と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。	【事前動画説明】ポートフォリオサイトの紹介。どういふ点がポイントに なるのか、どのような機能が使用されているかを解説、操作方法。	
12		講義・演習	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させ る。	【事前動画説明】ポートフォリオの中に入れる写真や動画の選定、レ タッチ、保存形式指定など下準備を整える。	
13		講義・演習	ポートフォリオサイトの提出 到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考え る		
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Vectorworks Basic(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	川原宏幸
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	図面製作ソフトベクターワークスの基本的な使い方を学び、実践で扱える技術を身につける。						
到達目標	ベクターワークスを使い、図形作成の知識、スキルをを習得する。						
評価方法と基準	知識を測るレポート提出 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期授業についての概要説明、MACの基本操作を学ぶ。	基本的なPC操作の復習レポートを作成。
2		講義・演習	ベクターワークスに慣れる①	授業内容の復習レポートを作成。
3		講義・演習	ベクターワークスに慣れる②	授業内容の復習レポートを作成。
4		講義・演習	直線・曲線を自由に描く	直線、曲線を描く復習レポートを作成。
5		講義・演習	多角線を描く	多角線を描く復習レポートを作成。
6		講義・演習	図形を描く	図形を描く復習レポートを作成。
7		講義・演習	線と図形を組み合わせて描く	図形を描く復習レポートを作成。
8		講義・演習	縮尺を理解し、慣れて使う①	授業内容の復習レポートを作成。
9		講義・演習	縮尺を理解し、慣れて使う②	授業内容の復習レポートを作成。
10		講義・演習	劇場図面を理解する①	様々な劇場の図面を調べてみる。
11		講義・演習	劇場図面を理解する②	様々な劇場の図面を調べてみる。
12		講義・演習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
13		講義・演習	明日への扉の舞台演出部として参加。ミュージカル舞台の図面を作成する。	明日への扉の図面作成と資料の整理
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の復習レポートを作成し、資料のまとめ、整理をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
ベクターワークス トレーニングブックより抜粋				

科目名	Vectorworks Basic(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	川原宏幸
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	図面製作ソフトベクターワークスの基本的な使い方を学び、実践で扱える技術を身につける。						
到達目標	ベクターワークスを使い、図形作成・照明仕込み図作成の知識、スキルを習得する。						
評価方法と基準	知識を測るレポート提出 50% 実技試験 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期授業内容のふりかえり	前期授業内容の復習をしておく。
2		講義・演習	袖幕配置、照明仕込み図のシンボル登録方法を学ぶ。	袖幕、シンボル登録の復習レポートを作成。
3		講義・演習	舞台セット図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
4		講義・演習	舞台セット図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
5		講義・演習	舞台総合図と照明サス仕込み図が作成できるようになる。	セット図、サス仕込み図の復習レポートを作成。
6		講義・演習	舞台図面の色つけと照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	色付け、仕込み図の復習レポートを作成。
7		講義・演習	舞台図面のオリジナル図作成と照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	オリジナル図の課題提出、仕込み図復習レポートを作成。
8		講義・演習	舞台のデザイン図と照明仕込み図の作成方法を学ぶ。	デザイン図の課題提出、仕込み図復習レポートを作成。
9		講義・演習	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展の内容を調べておく。
10		講義・演習	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展の内容を調べておく。
11		講義・演習	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展内容変更修正の把握。
12		講義・演習	卒業進級制作展演目別図面を作成する。	卒業進級制作展内容変更修正の把握。
13		講義・演習	作成した図面を活かし、進級制作展の舞台、照明を仕込む。	進級制作展の図面作成と資料の整理
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業内容の復習レポートを作成し、資料のまとめ、整理をする。	
【使用教科書・教材・参考書】				
ベクターワークス トレーニングブックより抜粋				

科目名	Art of K-POP (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	個人目標設定を行う	設定した目標に対するアプローチを考える
2		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ヒット、ウォークアウト)	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (アイソレーション、ポップ、サイドスライド)	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	リズムとグループの仕組みを知る	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (体重移動)	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	簡単な動きをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	簡単なステップをつけた時の体の使い方(歌唱)を知る	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる (リズムを意識して振り付けを行える)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行う	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	ステージパフォーマンスの流れを知る	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	振り付け、構成付き歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Art of K-POP (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	KYO-HEY
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ダンスヴォーカルとして必要な実戦に活かせる知識を習得する。 ②ヴォーカルとダンスの科目に関係し、その両方を同時に行えるようになスキルを身につける。 ③自らスキル向上、調整を行えるようにアーティストマインドも含め学んで欲しい。 ④踊っても歌がブレない身体作りや両立させる為の体の使い方等を、作品作りを通して向上させる。						
到達目標	ステージパフォーマンス強化を目的とする。ダンスにヴォーカルを融合させた場合のステージングスキル、ヴォーカルスキル、ダンススキル、セルフプロデュース力を向上させる。						
評価方法と基準	・課題成果「出席・授業態度」:40%・実技試験:60%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	歌唱時の振付に対する体の使い方を理解する	次の講義までに復習を要する
2		講義・演習	リズムを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
3		講義・演習	リズム＋グループを持続したまま歌唱パフォーマンスが出来る	次の講義までに復習を要する
4		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ポップ、フレックス)	次の講義までに復習を要する
5		講義・演習	ボディウェイブ初級が出来る	次の講義までに復習を要する
6		講義・演習	ボディウェイブ中級が出来る	次の講義までに復習を要する
7		講義・演習	歌唱パフォーマンス時の体のバランスを自分自身で整えることができる	次の講義までに復習を要する
8		講義・演習	パフォーマンスに緩急を付けられるようになる(アイソレーション、ストップ、エアポーズ)	次の講義までに復習を要する
9		講義・演習	自分で振り付け、ステージパフォーマンスを考えることができる	次の講義までに復習を要する
10		講義・演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを行うことができる	次の講義までに復習を要する
11		講義・演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める	次の講義までに復習を要する
12		講義・演習	試験	試験対策
13		講義・演習	試験総括(改善点を知る)	試験で出来なかった部分を復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			・パフォーマンスをする楽曲は歌詞を暗記して来ること ・歌詞をノートに書いて持って来ること	
【使用教科書・教材・参考書】				
iPad(カラオケ音源)、ワイヤレスマイク、ダミーマイク、キーボード、スニーカー				

科目名	Broadway seminar advance(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	齊藤早春
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける基礎とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に必要な基礎とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		講義・演習	イントネーションテクニックをを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		講義・演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		講義・演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		講義・演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		講義・演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		講義・演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		講義・演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		講義・演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		講義・演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		講義・演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルで必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Broadway seminar advance(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	齊藤早春
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける応用とそのスキルを学び、実際に表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		講義・演習	高度なイントネーションテクニックを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		講義・演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		講義・演習	より深いポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		講義・演習	より深いポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
6		講義・演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		講義・演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		講義・演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		講義・演習	応用のポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		講義・演習	応用のポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		講義・演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		講義・演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		講義・演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			ミュージカルで必要なスキルの習得するための自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (5) (Piano Duo(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗 熊谷 穰
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望ましい。本講義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		講義・演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Inst Ensemble A (6) (Piano Duo (6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗 熊谷 穂
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブル力を育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		講義・演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		講義・演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		講義・演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		講義・演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		講義・演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		講義・演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			アンサンブル力を身につける、リズムをよくするための繰り返し練習、週4時間	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	企画プロデュース・ プラクティスワークショップ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ラジオ局で番組やイベント・コンサート等、そして芸能事務所でファンイベントや演劇等、30年以上に渡り、様々な企画制作に携わっている。						
授業の学習 内容	エンタメ業界(社会)は、仕事やプロジェクトを遂行する上で、様々な職業の方達が関わっており、それぞれの職種やポジションで多様な役割を担い、その役割を果たすことで成立しています。この授業では、仕事や就職に対して近視眼的かつ短絡的に考えがちな学生たちの視野を広げ、大局を洞察しながら自分が携わっているプロジェクトの中で、全体の成功を目指して自分の役割を果たしていけるよう、多様な視点や深い洞察を持つためのヒントを教授、さらには業界の歴史や仕組みなど、上の世代の先輩たちと働く上で必要な心構えも伝授します。また、学生が提案するアイデアを元に学科横断的なオーガナイズやプロデュースワークを実践するイベント制作を行い、ゼロから1を生み出す楽しさや、やり遂げることの充実感を体感し、そうした経験から学生自身の将来目標の選択肢や可能性を広げる場とする。						
到達目標	これまで知らなかった職種の存在や立場を認識し、業界の全体像を理解できるようになる。 企画書や台本の文章の文脈から行間を読み取り、作り手の意図やターゲットに対する訴求ポイントを考察できるようになる。 自分の意思やアイデアを言語化し、他者に伝えるように説明できるようになる。(コミュニケーション・プレゼンスキルの向上) 独善的な行動ではなく、他者の意見を尊重しチームとして協調しながらアジェンダ(課題)に取り組めるようになる。 対外的あるいは社会への影響も意識した俯瞰的視点を持ちながら、目の前の課題に取り組めるようになる。 日本や世界の歴史、宗教やイデオロギーも含め、これからの時代のエンタメを生み出すために世の中のことに興味を持てるようになる。						
評価方法と基準	■出席率:50%(勤勉さ、持続性、基礎体力) ■受講態度:25% (アイデアや協調性、質問力、キャラクターなどを含む人間性) ■到達目標に対する達成度:25%(業務遂行スキル)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業ガイダンス／自己紹介(講師＆各生徒)	現時点での将来目標を語れるようにしておく
2		講義・演習	エンタメ業界の仕事概論 番組やコンサート、イベントに関わる職種と役割	ライブやコンサート、舞台等のパンフレットのなもの(スタッフクレジット掲載)を見つけてみる
3		講義・演習	文章や台本を読み解く(考察・分析する)ために	自分が得意な分野、苦手な分野を認識しておく
4		講義・演習	学校内定番イベントを企画しよう 企画の発想の仕方と企画書の書き方	企画考案にむけての疑問点・質問を考えておく
5		講義・演習	今注目しているエンタメコンテンツとその魅力の考察	好きなコンテンツを選び、その魅力について言語化、分析説明する準備をしておく
6		講義・演習	企画プレゼン① 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
7		講義・演習	企画プレゼン② 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
8		講義・演習	企画会議 提案された企画のブラッシュアップミーティング	他者の企画へのプラスアイデアの検討
9		講義・演習	企画会議 実施プラン検討・実現に向けた留意点	実施に向けた疑問点を挙げておく
10		講義・演習	実施プランの決定と役割分担 担当業務における課題の共有	学校各所への相談調整
11		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(メディアと芸能プロの関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
12		講義・演習	企画実施に向けた段階チェックと広報計画 ●業界考察(SNSとの関わり方)	学校HP等での宣伝活動
13		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(エンタメ業界と広告企業の関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	企画プロデュース・ プラクティスワークショップ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	片桐豊
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴	ラジオ局で番組やイベント・コンサート等、そして芸能事務所でファンイベントや演劇等、30年以上に渡り、様々な企画制作に携わっている。						
授業の学習 内容	エンタメ業界(社会)は、仕事やプロジェクトを遂行する上で、様々な職業の方達が関わっており、それぞれの職種やポジションで多様な役割を担い、その役割を果たすことで成立しています。この授業では、仕事や就職に対して近視眼的かつ短絡的に考えがちな学生たちの視野を広げ、大局を洞察しながら自分が携わっているプロジェクトの中で、全体の成功を目指して自分の役割を果たしていけるよう、多様な視点や深い洞察力を持つためのヒントを教授、さらには業界の歴史や仕組みなど、上の世代の先輩たちと働く上で必要な心構えも伝授します。また、学生が提案するアイデアを元に学科横断的なオーガナイズやプロデュースワークを実践するイベント制作を行い、ゼロから1を生み出す楽しさや、やり遂げることの充実感を体感し、そうした経験から学生自身の将来目標の選択肢や可能性を広げる場とする。						
到達目標	これまで知らなかった職種の存在や立場を認識し、業界の全体像を理解できるようになる。 企画書や台本の文章の文脈から行間を読み取り、作り手の意図やターゲットに対する訴求ポイントを考察できるようになる。 自分の意思やアイデアを言語化し、他者に伝わるように説明できるようになる。(コミュニケーション・プレゼンスキルの向上) 独善的な行動ではなく、他者の意見を尊重しチームとして協調しながらアジェンダ(課題)に取り組めるようになる。 対外的あるいは社会への影響も意識した俯瞰的視点を持ちながら、目の前の課題に取り組めるようになる。 日本や世界の歴史、宗教やイデオロギーも含め、これからの時代のエンタメを生み出すために世の中のことに興味を持てるようになる。						
評価方法と基準	■出席率:50%(勤勉さ、持続性、基礎体力) ■受講態度:25% (アイデアや協調性、質問力、キャラクターなどを含む人間性) ■到達目標に対する達成度:25%(業務遂行スキル)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イベント実施を受けての反省会	夏休み期間にイベント実施
2		講義・演習	学校内定番イベントを企画しよう 企画の発想の仕方と企画書の書き方	企画考案にむけての疑問点・質問を考えておく
3		講義・演習	今注目しているエンタメコンテンツとその魅力の考察	好きなコンテンツを選び、その魅力について言語化、分析説明する準備をしておく
4		講義・演習	企画プレゼン① 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
5		講義・演習	企画プレゼン② 生徒が考えたイベント企画の発表	学内定番イベントの企画考案
6		講義・演習	企画会議 提案された企画のブラッシュアップミーティング	他者の企画へのプラスアイデアの検討
7		講義・演習	企画会議 実施プラン検討・実現に向けた留意点	実施に向けた疑問点を挙げておく
8		講義・演習	実施プランの決定と役割分担 担当業務における課題の共有	学校各所への相談調整
9		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(メディアと芸能プロの関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
10		講義・演習	企画実施に向けた段階チェックと広報計画 ●業界考察(SNSとの関わり方)	学校HP等での宣伝活動
11		講義・演習	企画遂行経過報告とアドバイス、意見交換 ●業界考察(エンタメ業界と広告企業の関係)	学校各所や対外的な交渉、役割ごとの準備
12		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ①	レポート提出
13		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ①	レポート提出
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ②	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ②	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	クリエイティブワークショップ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して、最低3回のプレゼンテーションを行う。②学期末に1コーラス以上の作品を提出する。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の概要説明、イントロダクション	課題制作
2		講義・演習	インターバルの復習、Top Liningの実践	課題制作
3		講義・演習	テスト、Show vs Tellを理解する	課題制作
4		講義・演習	トライアドコードの復習、比喩のgroup work	課題制作
5		講義・演習	7thコードの復習、ここまでのまとめの小作曲	課題制作
6		講義・演習	メジャーコード、ワンコードの作曲	課題制作
7		講義・演習	マイナーコード、ワンコードの作曲2	課題制作
8		講義・演習	メジャーコード進行を作って小作曲	課題制作
9		講義・演習	マイナーコード進行を作って小作曲	課題制作
10		講義・演習	キーカラーを理解し小作曲	課題制作
11		講義・演習	期末課題に向けてQ&A	期末課題制作
12		講義・演習	作品提出、期末課題プレゼン1	期末課題制作
13		講義・演習	期末課題プレゼン2	期末課題制作
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
The Songwriter' s Workshop Melody, Harmony, Writing Better Lyrics, コード理論大全				

科目名	クリエイティブワークショップ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	金子勝洋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業は、音楽理論の基礎を学びながら小作品を制作、発表する。それらを通して、ミュージシャンとしての基礎力向上と、自己表現力を育むことを目標としている。ヴォーカリストは耳を使って音楽をすることに長けており、音楽理論に触れる機会が少ない傾向にある。そのため、創作を通して、音楽理論やハーモニー楽器に触れて、広い視野で音楽を理解する力を養う。そして、他人の評価に挫けたり、全てを委ねてしまうことなく、自らの表現を恐れずに発信できるミュージシャンへと成長することを促す。						
到達目標	①小作品の制作を通して、音楽理論の基礎をより深く理解する。②自分の制作の経緯、意図、想いを言語化し発表する。③授業外で時間の調整を行い、多様なスケジュールの下でも、課題を期日までに創る。④定期的なプレゼンテーションを通して、自分の作品が他者の目に晒されることの緊張や不快感と向き合い、自分らしい対処法を見つける。⑤0から1を創る経験を通して、身の回りにある音楽に対して、尊ぶ気持ちを養う。						
評価方法と基準	①1学期を通して3～4回以上プレゼンをする(回数はクラスによって異なる)②学期末にオリジナル曲をパフォーマンスする。③授業が全ての生徒にとってセーフスペースになるよう貢献する。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	理論 テーマ作曲1 曲のトーン	課題制作
2		講義・演習	理論 Q&A	作品原案
3		講義・演習	テーマ作曲1プレゼンテーション	課題制作
4		講義・演習	理論 テーマ作曲2 韻を使った作詞	作品原案
5		講義・演習	理論 Q&A	課題制作
6		講義・演習	テーマ作曲2プレゼンテーション	課題制作
7		講義・演習	理論 テーマ作曲3 New Point of View	課題制作
8		講義・演習	理論 Q&A	作品原案
9		講義・演習	テーマ作曲3プレゼンテーション	課題制作
10		講義・演習	期末パフォーマンスについて	作品の完成
11		講義・演習	Q&A	作品の完成
12		講義・演習	プレゼンテーション group1 パフォーマンス	プレゼンテーション準備
13		講義・演習	プレゼンテーション group2 パフォーマンス	プレゼンテーション準備
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
The Songwriter's Workshop Melody, Harmony, Writing Better Lyrics, コード理論大全				

科目名	アーティストコンテンツ制作 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要とされているのは「自己発信力」=「セルフプロデュース能力」です。コンテンツ(楽曲など)のリリースを通して、セルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。学生の皆さんと一緒にアイデアを出し合いながら、①実践編として、学生の皆さんの「コンテンツ創り」のさらなる活性化をサポートし、その創ったコンテンツをリリース。そしてそのコンテンツのヒットを目指します。また、②座学編として、アーティスト活動を行なうために必要な知識を学びます(SNS/YouTube/サブスクの活用方法、著作権印税/原盤印税/アーティスト印税などの権利周り、グッズビジネス、ファンクラブビジネス、商標登録など)。数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからのセルフプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	コンテンツ発表を通して自らをヒットさせる アーティスト活動を行なうために必要な知識の習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的なアティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション	スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	コンテンツ創りサポート/自分のアーティスト資料作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	コンテンツ創りサポート/自分のアーティスト資料作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	コンテンツ創りサポート/SNSの活用方法①	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	コンテンツ創りサポート/YouTube・サブスクの活用方法①	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	コンテンツ創りサポート/CDやサブスクでいくら儲かるの？-1(権利ビジネス)	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	コンテンツ創りサポート/CDやサブスクでいくら儲かるの？-2(権利ビジネス)	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	音源発表	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	振り返り	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールリングを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アーティストコンテンツ制作 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要とされているのは「自己発信力」=「セルフプロデュース能力」です。コンテンツ(楽曲など)のリリースを通して、セルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。学生の皆さんと一緒にアイデアを出し合いながら、①実践編として、学生の皆さんの「コンテンツ創り」のさらなる活性化をサポートし、その創ったコンテンツをリリース。そしてそのコンテンツのヒットを目指します。また、②座学編として、アーティスト活動を行なうために必要な知識を学びます(SNS/YouTube/サブスクの活用方法、著作権印税/原盤印税/アーティスト印税などの権利周り、グッズビジネス、ファンクラブビジネス、商標登録など)。数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからのセルフプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	コンテンツ発表を通して自らをヒットさせる アーティスト活動を行なうために必要な知識の習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的なアティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	コンテンツ創りサポート/活動プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	コンテンツ創りサポート/宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	コンテンツ創りサポート/ファンクラブビジネス	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	コンテンツ創りサポート/グッズビジネス	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	コンテンツ創りサポート/登録商標	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	コンテンツ創りサポート/出演料の計算方法	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	コンテンツ創りサポート/ライブ制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	コンテンツ創りサポート/海外進出の仕方	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	音源発表	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	振り返り	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	今後のエンタメビジネス	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・授業外のスケジュールリングを心がける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アーティストセルフマネジメント (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要なとされているのは「自己発信力」=「セルフプロデュース能力」です。イベント制作を通してセルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。①実践編として、学生の皆さん自らが自らをプロデュースするイベントを開催し、イベントの企画制作・宣伝・運営のすべてを学生の皆さんが行ない、イベントの成功を目指します。また、②座学編として、アーティスト活動を行なうために必要な知識を学びます(SNS/YouTube/サブスクの活用方法、著作権印税/原盤印税/アーティスト印税などの権利周り、グッズビジネス、ファンクラブビジネスなど)。数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからのセルフイベントプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	自らが出演するイベントの企画制作・宣伝・運営を通して自らをヒットさせる エンタメ業界の基礎知識の習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的なアティチュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエンテーション	スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / SNS活用方法	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / YouTube活用方法	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / サブスク活用方法	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	イベント開催に向けての準備	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	イベント開催に向けての準備	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	イベント開催に向けての準備	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	イベント開催	イベント準備／反省点をレポート作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アーティストセルフマネジメント (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	上野新
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	サブスク・SNS・AIの進化により、現在のアーティストに必要なとされているのは「自己発信力」=「セルフプロデュース能力」です。イベント制作を通してセルフプロデュース能力を養うことがこの授業の目的です。①実践編として、学生の皆さん自らが自らをプロデュースするイベントを開催し、イベントの企画制作・宣伝・運営のすべてを学生の皆さんが行ない、イベントの成功を目指します。また、②座学編として、アーティスト活動を行なうために必要な知識を学びます(SNS/YouTube/サブスクの活用方法、著作権印税/原盤印税/アーティスト印税などの権利周り、グッズビジネス、ファンクラブビジネスなど)。数多くの新たなエンタメツールが生まれる中、音楽業界は大きな転換期にあります。過去に囚われないこれからのセルフイベントプロデュースの可能性を学生の皆さんと一緒に考えていきます。						
到達目標	自らが出演するイベントの企画制作・宣伝・運営を通して自らをヒットさせる エンタメ業界の基礎知識の習得						
評価方法と基準	□総合的な授業態度 ・・・出席率 ・・・それぞれのキャラクターを大事にした能動的なアティテュード						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		講義・演習	イベント開催に向けての企画立案	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 宣伝プラン作成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 権利ビジネス	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 権利ビジネス	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / ファンクラブビジネス	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / グッズビジネス	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		講義・演習	イベント開催に向けての準備 / 出演料の計算方法	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		講義・演習	イベント開催に向けての準備	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		講義・演習	イベント開催に向けての準備	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		講義・演習	イベント開催に向けての準備	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		講義・演習	イベント開催	イベント準備／反省点をレポート作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Recワークショップ 2 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する為の授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し次年度の応用に対応出来るよう学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングのワークフローを説明できる。機材の基礎的使用・レコーディング業界標準のProtocols(プロトツールズ)の基本的な使用方法を理解し実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	1年間の計画 機材廻り信号の流れを説明できる	ノート復習
2		講義・演習	音の聴き方① モニター環境について述べる ことができる	楽曲準備 解析復習
3		講義・演習	プロツールズについて説明できる	WEBサイト閲覧
4		講義・演習	マイク① マイクの種類を説明できる	マイク情報収集
5		講義・演習	エフェクター① エフェクターの種類を説明できる	エフェクター情報収集
6		講義・演習	機材廻り信号の流れ② Rec信号の流れを説明できる	ノート復習
7		講義・演習	レコーディング① VocalRecが実践できる	シグナル/ワークフロー復習
8		講義・演習	音の聴き方② 音の聴き方を説明できる	楽曲準備 解析復習
9		講義・演習	機材の情報収集を実践できる	WEBサイト閲覧
10		講義・演習	レコーディング②様々な楽器録音が実践できる	シグナルフロー復習
11		講義・演習	レコーディング③様々な楽器録音が実践できる	シグナル/ワークフロー復習
12		講義・演習	レコーディング④様々な楽器録音が実践できる	録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	エフェクター③ エフェクターの使用方法を説明できる	プラグイン復習操作
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	Recワークショップ 2 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンジニアの仕事に関わる基礎項目を習得する為の授業です。基礎知識を得る事で他科目の理解を深められます。難しい項目もありますが判りやすく授業をしますので頑張って参加し次年度の応用に対応出来るよう学習してください。実技と座学で機材＆音との接しかたや楽曲の捉え方まで多義に渡り解説します。服装はエンジニアリングを行うにふさわしい格好(行動しやすい靴や服で参加する事。スカートは避ける事。) 持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	レコーディングのワークフローを説明できる。機材の基礎的使用・レコーディング業界標準のProtocols(プロトツールズ)の基本的な使用方法を理解し実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	エフェクター④ エフェクターの使用方法を説明できる	プラグイン復習操作
2		講義・演習	サラウンド① サラウンドについて説明できる	サラウンド情報収集
3		講義・演習	ハンダ付け ケーブル作成が実践出来る	ケーブルチェック
4		講義・演習	ミックス作業を述べることができる	ワークフロー復習
5		講義・演習	音の聴き方③ 音の聴き方を説明できる	楽曲準備 解析復習
6		講義・演習	サラウンド②サラウンドのセットアップができる	サラウンド情報収集
7		講義・演習	スタジオ機材メンテナンスが出来る	配布資料確認
8		講義・演習	マスタリングの概略が説明できる	配布資料確認
9		講義・演習	ラウドネスレベルについて説明できる	配布資料確認
10		講義・演習	ライブレコーディングについて説明できる	配布資料確認
11		講義・演習	ライブレコーディングのセッティングが出来る	配布資料確認
12		講義・演習	ライブRec総括とミックス作業概要の説明ができる	ノート復習
13		講義・演習	総括	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	ProTools for Creator's (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	制作現場で常に要求されるPro Toolsを確実にコントロールするための知識を習得する。						
到達目標	Avid Pro tools 110レベルのコントロールを習得する。その上で打ち込みを含めたオリジナル楽曲を作成する。						
評価方法と基準	課題提出 出席重視 ALP Pro Tools110テスト合格(90点以上)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	Mixの基本8 Midi Instrument	レポート提出
2		講義・演習	Mixの基本9 Master FX	レポート提出
3		講義・演習	オリジナル楽曲の基本配置	レポート提出
4		講義・演習	オリジナル楽曲へのMidi Instrument追加	レポート提出
5		講義・演習	MA1	レポート提出
6		講義・演習	MA2	レポート提出
7		講義・演習	MA3	レポート提出
8		講義・演習	MAのMIX課題	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
9		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
10		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
11		講義・演習	個別のMixへのアドバイス	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
12		講義・演習	Mixの最終仕上げ	時間内に終わらない時は次週迄に終わらせる
13		講義・演習	Mixの提出	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ProTools for Creator's (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	制作現場で常に要求されるPro Toolsを確実にコントロールするための知識を習得する。						
到達目標	Avid Pro tools 110レベルのコントロールを習得する。その上で打ち込みを含めたオリジナル楽曲を作成する。						
評価方法と基準	課題提出 出席重視 ALP Pro Tools110テスト合格(90点以上)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ALP Protools101 1	レポート提出
2		講義・演習	ALP Protools101 2	レポート提出
3		講義・演習	ALP Protools101 3	レポート提出
4		講義・演習	ALP Protools101 4	レポート提出
5		講義・演習	ALP Protools101 試験	試験対策
6		講義・演習	ALP Protools110 1	レポート提出
7		講義・演習	ALP Protools110 2	レポート提出
8		講義・演習	ALP Protools110 3	レポート提出
9		講義・演習	ALP Protools110 4	レポート提出
10		講義・演習	ALP Protools110 5	レポート提出
11		講義・演習	ALP Protools110 6	レポート提出
12		講義・演習	ALP Protools110 7	レポート提出
13		講義・演習	ALP Protools110 試験	試験対策
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer 2 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1コマの座学に引き続き座学の内容に基づいた1コマの実習を行う。デジタル録音の仕組みから高度な編集技術、レコーディングからマスタリングに至るまでさまざまな知識とスキルの習得を目指す。現在音楽業界でスタンダードに行われているプロフェッショナルレベルの作業の実習。						
到達目標	プロの作曲家、編曲家、エンジニア、アーティストとして最低限知っておかなければいけない制作の知識、録音、編集等のスキルなどを身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ボーカル録音1、レイテンシー、インプットミキサー部屋鳴り、リフレクションフィルター	間違い探し1
2		講義・演習	ボーカル録音2、マイクプリアンプ、ボーカルディレクション1	間違い探し2
3		講義・演習	ボーカル録音3、エンジニアのポジションボーカルディレクション2	間違い探し3
4		講義・演習	アコギ録音、マイキング、ばみり、道具の準備、TIPS、ディレクション	間違い探し4
5		講義・演習	エレキギターの録音1、プラグイン処理、レイテンシーUNISONテクノロジー、歪系エフェクターの種類	反復練習
6		講義・演習	エレキギターの録音2、もっと優れた方法Palmer、Kemper、多くの方法の比較	反復練習
7		講義・演習	アナログ感と歪み1録音機材の進化と音楽発展の歴史	反復練習
8		講義・演習	アナログ感と歪み2、ミックスへの応用、いろんな傾向のプラグイン、リアンプ、	反復練習
9		講義・演習	マスタリング1マスタリングの基礎、DAW上のプラグイン	反復練習
10		講義・演習	マスタリング2ラウドネス、配信用、WAVELAB、	反復練習
11		講義・演習	総合実習1(色)	反復練習
12		講義・演習	総合実習2(国)	反復練習
13		講義・演習	後期まとめ、後期試験	完全解答作成
14		講義・演習	イベント実践を通してレコーディングスキルを学ぶ	イベントに向けての準備
15		講義・演習	イベント実践を通して制作スキルを学ぶ	イベントに向けての準備
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer 2 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	勝守理
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1コマの座学に引き続き座学の内容に基づいた1コマの実習を行う。デジタル録音の仕組みから高度な編集技術、レコーディングからマスタリングに至るまでさまざまな知識とスキルの習得を目指す。現在音楽業界でスタンダードに行われているプロフェッショナルレベルの作業の実習。						
到達目標	プロの作曲家、編曲家、エンジニア、アーティストとして最低限知っておかなければいけない制作の知識、録音、編集等のスキルなどを身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	レコーディングとは？デジタルとアナログ	身の回りにあるレコーディング機材
2		講義・演習	サンプリング周波数、ビット深度とエイリアスノイズと倍音、LPF	自分の機材を知る
3		講義・演習	各種接続フォーマット、各種保存フォーマット、Dante、MADI、圧縮フォーマット	自分が使用しているフォーマットを知る
4		講義・演習	だまされずにカタログを読む、f特、ダイナミックレンジ、THD+N、	カタログを読み解く
5		講義・演習	他のスタジオとの連携、OMF、AAF、ListenToリモートデスクトップ、	リモートレコーディング、データ互換
6		講義・演習	ワードクロックとは、マスターとスレーブクロックジェネレーター、	外部スタジオで気をつけること
7		講義・演習	MIXの基本、EQの意味、コンプの動作、複数の空間系の掛け方、オートメーション	自分の作品の見直し
8		講義・演習	MIXの応用、ステムミックス、パラレルミックス高度なオートメーション	自分の作品の見直し
9		講義・演習	オーディオ編集、リズム修正の基本エラスティック、スライス	反復練習
10		講義・演習	オーディオ編集、高度なリズム修正マルチトラックスライス、エラスティックの限界	反復練習
11		講義・演習	オーディオ編集、ピッチ修正の基本Melodyne、Auto-Tune	反復練習
12		講義・演習	オーディオ編集、高度なピッチ修正Melodyne2、Auto-Tune2	反復練習
13		講義・演習	前期まとめ、前期試験	完全解答作成
14		講義・演習	イベント実践を通してMIXスキルを学ぶ	イベントに向けての準備
15		講義・演習	イベント実践を通して編集スキルを学ぶ	イベントに向けての準備
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	多田彰文
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 1年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、しっかりと理解できていますか？ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていたりしませんか？ これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう！ Q&A形式による楽曲共同制作(Co-Writing)、生楽器スタジオ録音&ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端技術(AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用)なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング(相談)にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・音楽理論活用・楽器の種類と奏法・ソフトウェア音源への活用術 ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ミックス知識・エフェクターの活用方法(補正的から積極的なものまで) ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なのかを知る → 音楽というものの基礎を理解し、自身の作品へ出力する ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作成・模擬インタビュー動画作成・アーティストショット作成など 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつける						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率) ○各自の楽曲音源提出(早期段階での提出の形をとります) ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の概要説明 ～ 作曲共同実践1	わからないことは何かを考えておく
2		講義・演習	課題音源提出の説明 ～ 作曲共同実践2	最新制作音源を準備しておく
3		講義・演習	作曲におけるメロディーとコード(和音)の関係性	音楽理論などはあらかじめ復習しておく
4		講義・演習	編曲共同実践1	レポート提出
5		講義・演習	編曲共同実践2	レポート提出
6		講義・演習	編曲の基本説明	レポート提出
7		講義・演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing) 1	作曲編曲の作業準備
8		講義・演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing) 2	作曲編曲の作業準備
9		講義・演習	録音についての説明と実習1	実習のレポートと課題提出
10		講義・演習	録音についての説明と実習2	実習のレポートと課題提出
11		講義・演習	AI作曲の導入と制作	制作準備
12		講義・演習	歌声合成ソフト比較研究	レポート提出
13		講義・演習	前期まとめ	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージックセオリー(TSM音楽理論書)／多田作成「MIXDOWN作業のポイント」				

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	多田彰文
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 1年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、しっかりと理解できていますか？ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていたりしませんか？これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう！Q&A形式による楽曲共同制作（Co-Writing）、生楽器スタジオ録音&ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端技術（AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用）なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング（相談）にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・音楽理論活用・楽器の種類と奏法・ソフトウェア音源への活用術 ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ミックス知識・エフェクターの活用方法（補正的から積極的なものまで） ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なのかを知る → 音楽というものの基礎を理解し、自身の作品へ出力する ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作成・模擬インタビュー動画作成・アーティストショット作成など 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつける						
評価方法と基準	○出席率重視（学校規定出席率） ○提出小論文（感想文ではありません） A4用紙 800字以内（手書き・テキスト打ち両方可） 課題例：「音楽制作における音楽理論の有効性について、その見解を述べなさい。」 ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	後期の概要説明～楽曲制作共同作業1	わからないことは何かを考えておく
2		講義・演習	課題小論文提出の説明～ヒット曲の解析	レポート提出
3		講義・演習	楽曲制作共同作業2	レポート提出
4		講義・演習	楽曲制作共同作業3	レポート提出
5		講義・演習	楽曲制作共同作業4	レポート提出
6		講義・演習	配信の知識とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
7		講義・演習	配信動画の作成とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
8		講義・演習	模擬インタビュー	撮影のためのVisualセルフチェック
9		講義・演習	録音実習3	実習準備
10		講義・演習	録音実習4	実習準備
11		講義・演習	録音実習5	実習準備
12		講義・演習	業界へのアピール方法と結果の出し方	レポート提出
13		講義・演習	後期まとめ	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に取り組む	
【使用教科書・教材・参考書】				
ミュージックセオリー(ＴＳＭ音楽理論書)／多田作成「MIXDOWN作業のポイント」				

科目名	アレンジング with Sibelius(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。管楽器の特性を理解して2管のアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リードシートの作成方法について	リードシートの作成方法について 振り返りと自習。
2		講義・演習	リードシートの作成の演習	リードシートの作成の演習 振り返りと自習。
3		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について 振り返りと自習。
4		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習 振り返りと自習。
5		講義・演習	リズム譜の作成	リズム譜の作成 振り返りと自習。
6		講義・演習	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成 振り返りと自習。
7		講義・演習	ギター譜を作成について	ギター譜を作成について 振り返りと自習。
8		講義・演習	ギター譜を作成の演習	ギター譜を作成の演習 振り返りと自習。
9		講義・演習	イントロを作成について	イントロを作成について 振り返りと自習。
10		講義・演習	アウトロを作成について	アウトロを作成について 振り返りと自習。
11		講義・演習	管楽器のレンジとトランスポーズ	管楽器のレンジとトランスポーズ 振り返りと自習。
12		講義・演習	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ 振り返りと自習。
13		講義・演習	前期のアレンジ課題の提出	課題に取り組み期限内に提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	アレンジング with Sibelius(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し、管楽器の特性を理解して5管+ストリングスのアレンジができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	インストゥルメンテーションを理解する。	インストゥルメンテーションを理解する。 振り返りと自習。
2		講義・演習	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ 振り返りと自習。
3		講義・演習	2part Soliの構築が出来る様になる。	2part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
4		講義・演習	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicing の構築	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicing の構築 振り返りと自習。
5		講義・演習	4part Soliの構築が出来る様になる。	4part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
6		講義・演習	3part Soliの構築が出来る様になる。	3part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
7		講義・演習	5part Soliの構築が出来る様になる。	5part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。
8		講義・演習	Spread voicingとアプローチノート	Spread voicingとアプローチノート 振り返りと自習。
9		講義・演習	Guide Tone backing	Guide Tone backing 振り返りと自習。
10		講義・演習	Inner voicing embellishment	Inner voicing embellishment 振り返りと自習。
11		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ1	5管と弦を含むアレンジ1 振り返りと自習。
12		講義・演習	5管と弦を含むアレンジ2	5管と弦を含むアレンジ2 振り返りと自習。
13		講義・演習	後期アレンジ課題提出	課題に取り組み期限内に提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	藤井文司
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「セルフプロデュース」は、年間6回の発表の日と、「J-POPの歴史」「DTM基礎」を2～3限の中で1コマずつ授業を行う日に分 かれます。 発表日には、オリジナル楽曲(作詞／作曲／アレンジ／歌入れ／ミックス)を提出します。 提出した楽曲を、学生が聞いて採点、その集計結果は授業グループのLINEで発表します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同じ学校の同世代から支持される楽曲を作ること。 これが、この授業の目的です。制作は個人でも、チーム(授業外の学生を含む)どちらも可です。						
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	オリエン	レポート提出
2		講義・演習	60年代のJ-POP	レポート提出
3		講義・演習	吉田拓郎と井上陽水	レポート提出
4		講義・演習	はっぴいえんどと日本語のロック	レポート提出
5		講義・演習	荒井由美とニューミュージック	制作準備
6		講義・演習	制作日	発表準備
7		講義・演習	発表1	レポート提出
8		講義・演習	細野晴臣と大瀧詠一	レポート提出
9		講義・演習	山下達郎	レポート提出
10		講義・演習	サザンオールスターズ	制作準備
11		講義・演習	制作日	発表準備
12		講義・演習	発表2	発表準備
13		講義・演習	発表3	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	藤井文司
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「DTM」は主にシンセ、サンプラー、ブレイクビーツ、プラグインエフェクト、オートメーションなどを学ぶ授業です。						
到達目標	空間的な音作りができること／カッコいいリズムトラックが作れる。この二つが目標です。						
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	制作日	発表準備
2		講義・演習	発表4	レポート提出
3		講義・演習	アルペジオ	レポート提出
4		講義・演習	プラグインエフェクト／オートメーション	レポート提出
5		講義・演習	プラグインエフェクト／オートメーション2	制作準備
6		講義・演習	制作日	発表準備
7		講義・演習	発表5	レポート提出
8		講義・演習	90年代ロック	レポート提出
9		講義・演習	オーディオスライス	レポート提出
10		講義・演習	ボーカルシンセ	制作準備
11		講義・演習	テスト2	テスト
12		講義・演習	制作日	発表準備
13		講義・演習	発表6	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			振り返りと自習	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	空間オーディオプロデュース(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	イマーシブサウンドを理解し制作フローを実践する授業です。実技と座学で機材 & イマーシブサウンドとの接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	イマーシブの基礎ワークフロー理解。クリエイター/エンジニアとして基礎レベルのサラウンド機材が使用出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介 年間計画発表 イマーシブサウンド体験 本質	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	機材設定基礎 ATMOS 360 / モノラル / ステレオ について	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	MV1 キャリブレーションDay1 プロファイル測定をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	MV1 キャリブレーションDay2 プロファイル測定をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	Immersive配信音源にアクセスし聴く事が出来るようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	Protoolsセッティング基礎1 入出力設定とモニタリング	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	Protoolsセッティング基礎2 DolbyATMOS renderer	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	Protoolsセッティング基礎3 DolbyATMOS renderer Mix1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	Protoolsセッティング基礎4 DolbyATMOS renderer Mix2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	Protoolsセッティング基礎5 360 WalkMixCreator設定	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	Protoolsセッティング基礎6 360 WalkMixCreatorMix1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	Protoolsセッティング基礎7 360 WalkMixCreatorMix2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	総括 課題提出	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				

科目名	空間オーディオプロデュース(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	前田基彦
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	イマーシブサウンドを理解し制作フローを実践する授業です。実技と座学で機材 & イマーシブサウンドとの接しかたや楽曲の捉え方までエンジニアの立場から多義に渡り解説します。持ち物は、①授業内で使用する音源等持ち帰り用 USBメモリ・ハードディスクなどの外部記憶媒体 ②自分のリファレンス(基準)となるヘッドフォンまたはイヤホン(接続はTRSまたはミニTRS)						
到達目標	イマーシブの基礎ワークフロー理解。クリエイター/エンジニアとして基礎レベルのサラウンド機材が使用出来るようになる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト60% 2) 出席数40% シラバスを基に要事前学習。上記到達目標項目に関する定期テストを行う。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期課題チェック&コメント	ノート復習 録音ファイル復習聴取
2		講義・演習	HRTF 頭部伝達関数の説明ができるようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
3		講義・演習	映画のイマーシブ製作基礎の理解	ノート復習 録音ファイル復習聴取
4		講義・演習	Ambisonics1 基礎項目を習得する	ノート復習 録音ファイル復習聴取
5		講義・演習	Ambisonics2 基礎項目を実践・説明する事が出来る	ノート復習 録音ファイル復習聴取
6		講義・演習	Protools以外のソフトでイマーシブを実行する事が出来る1	ノート復習 録音ファイル復習聴取
7		講義・演習	Protools以外のソフトでイマーシブを実行する事が出来る2	ノート復習 録音ファイル復習聴取
8		講義・演習	さまざまな楽曲の表現方法の理解し説明する事が出来る	ノート復習 録音ファイル復習聴取
9		講義・演習	イマーシブMixを通し自己表現のヒントを見つける	ノート復習 録音ファイル復習聴取
10		講義・演習	22.2ch Auro3Dを説明することが出来るようになる	ノート復習 録音ファイル復習聴取
11		講義・演習	さまざまな楽曲の表現方法の理解をする	ノート復習 録音ファイル復習聴取
12		講義・演習	学期末テスト課題中間チェック	ノート復習 録音ファイル復習聴取
13		講義・演習	学期末テスト課題チェック 総括	ノート復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業で録音の楽曲のMix作業	
【使用教科書・教材・参考書】				
JAPRS サウンドレコーディング技術概論 Sound & Recording マガジン				
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷				

科目名	Private Lesson(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	小林 幸 恵 大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージシャン、アーティストにとって必要不可欠な音階を学び、ソロアプローチ法やそのテクニックを学ぶ。						
到達目標	メジャースケールの5パターン、メジャーペンタトニックスケールの5パターン、ダイアトニックアルペジオの使い方、ソロ奏法ができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義・演習	メジャー・スケールのハーモニーを理解する。	メジャー・スケールのハーモニーの復習を行い実演する。	
2		講義・演習	1、3、5度のコード・トーンからスケールを始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。	
3		講義・演習	メジャー・スケールパターン・トライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
4		講義・演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。	
5		講義・演習	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
6		講義・演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。	
7		講義・演習	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオの使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
8		講義・演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。	
9		講義・演習	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
10		講義・演習	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
11		講義・演習	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギュメントアルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギュメントアルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
12		講義・演習	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
13		講義・演習	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習					
【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Private Lesson(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	小林 幸 恵 大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アンサンブルコミュニケーション力と、インスト楽曲での各楽器の演奏バリエーションを学ぶ。						
到達目標	ミュージシャンにとって必要な読譜力を学び、様々なスタイルの楽曲を様々なキーで演奏する。						
評価方法と基準	実技による採点:100%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	譜面の読み方、パート作りを行い書く写すことができる。	譜面の読み方、パート作りを行い書く写し譜面作成する。
2		講義・演習	ブルースのコード進行の理解し演奏できる。	ブルースのコード進行の復習をし演奏を録音する。
3		講義・演習	パートのバリエーションとソロの応用を行い実演する。	パートのバリエーションとソロの応用を復習をし演奏を録音する。
4		講義・演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解し12小節、8ビートブルースの演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
5		講義・演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
6		講義・演習	8小節ブルース＋ブリッジの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース＋ブリッジ復習をし演奏を録音する。
7		講義・演習	8小節ブルース＋ブリッジの理解し、ブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース＋ブリッジ復習をし演奏を録音する。
8		講義・演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース＋ブリッジ構成曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの復習をし演奏を録音する。
9		講義・演習	シンコペーションと分数コードの理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの理解をし復習をし演奏を録音する。
10		講義・演習	シンコペーションと分数コードを理解しシンコペーションと分数コード曲の演奏。	シンコペーションと分数コードを理解し復習をし演奏を録音する。
11		講義・演習	シンコペーション、分数コードの理解しロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーション、分数コードの理解し復習をし演奏を録音する。
12		講義・演習	レゲエスタイルの理解とロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
13		講義・演習	レゲエスタイルの理解しレゲエスタイル曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各スケール練習、コードワーク復習を1日1時間を基本に繰り返す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンサートテクニック(5) (チーム制作プロジェクトA(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	岡秀樹
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。 即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。 イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既存概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目指す。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価 40% メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ、プロモーション実行具合を評価30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	新年度オリエンテーションの実施 (アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞を終えての討論)	クラスでのコミュニケーションの振り返り
2		講義・演習	コンサートの企画・制作・運営の考え方を学び、2年生が運営・制作を行う新入生歓迎ライブを見学する。	新入生歓迎ライブ出演者プロフィール把握、 ステージセット把握
3		講義・演習	エンターティメント施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べる
4		講義・演習	エンターティメント施設取材②(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究
5		講義・演習	エンターティメント施設取材③(取材内容、取材方法を検討)	各自インタビュー記事の研究
6		講義・演習	エンターティメント施設取材④(プレゼンテーション準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表の作成
7		講義・演習	エンターティメント施設取材⑤(プレゼンテーション実施/報告書の作成)	班員にて発表シミュレーション
8		講義・演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介)	エンターティメント取材報告書完成・提出
9		講義・演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	企業研究(歴史、理念、業務内容)
10		講義・演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書:プロモーションプランの作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11		講義・演習	企業プロジェクト④(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	プロモーションスケジュール作成、運営マニュアルラフ作成
12		講義・演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営・制作を実践)口	運営マニュアルの読み合わせ
13		講義・演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
都度必要に応じて自作プリント配布				

科目名	コンサートテクニック(5) (チーム制作プロジェクトB(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。 即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。						
到達目標	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。 イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは「既存概念に捉われないこと無く、自分たちに何が出来るかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを提案し実行」することを目指す。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価 40% メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ、プロモーション実行具合を評価30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	新年度オリエンテーションの実施 (アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞を終えての討論)	クラスでのコミュニケーションの振り返り
2		講義・演習	コンサートの企画・制作・運営の考え方を学び、2年生が運営・制作を行う新入生歓迎ライブを見学する。	新入生歓迎ライブ出演者プロフィール把握、 ステージセット把握
3		講義・演習	エンターティメント施設取材①(企画書作成/渋谷施設調べ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べる
4		講義・演習	エンターティメント施設取材②(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究
5		講義・演習	エンターティメント施設取材③(取材内容、取材方法を検討)	各自インタビュー記事の研究
6		講義・演習	エンターティメント施設取材④(プレゼンテーション準備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレーション)	発表パワーポイント・発表進行表の作成
7		講義・演習	エンターティメント施設取材⑤(プレゼンテーション実施/報告書の作成)	班員にて発表シミュレーション
8		講義・演習	企業プロジェクト①(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介)	エンターティメント取材報告書完成・提出
9		講義・演習	企業プロジェクト②(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	企業研究(歴史、理念、業務内容)
10		講義・演習	企業プロジェクト③(プロジェクト企画書:プロモーションプランの作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成
11		講義・演習	企業プロジェクト④(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	プロモーションスケジュール作成、運営マニュアルラフ作成
12		講義・演習	企業プロジェクト⑤(イベント当日の運営・制作を実践)口	運営マニュアルの読み合わせ
13		講義・演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
都度必要に応じて自作プリント配布				

科目名	コンサートテクニック(5) (チーム制作プロジェクトC(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大島直子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を学習する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験学習する						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されても対応できる基礎知識を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施時における様々な事象の対応力を 習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要なレベルの実務力を習得する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	プロジェクトの進め方の概要説明	プロフィールシートの作成
2		講義・演習	ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	打合せ準備資料の作成
3		講義・演習	ライブイベント実施[CIVILIAN]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
4		講義・演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
5		講義・演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]1st・[QUEENS]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
6		講義・演習	ライブイベントを記録する(映像収録とWEB)の制作を学ぶ	ライブ映像の編集処理
7		講義・演習	各ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	運営マニュアルの作成
8		講義・演習	各ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9		講義・演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
10		講義・演習	ライブイベント実施[QUEENS]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
11		講義・演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
12		講義・演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
13		講義・演習	ライブイベント実施[Pro Musician FES]現場での動きを学ぶ	運営マニュアルの作成・読み合わせ
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンサートテクニック(5) (チーム制作プロジェクトD(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	チームでの制作における技術の習得 ○自身の歌唱・演奏を自身で録音し、デモを作成する技術の習得 ○プリプロ・完パケ音源の制作に必要な準備 ○レコーディングを経て、ディレクター・プロデューサーとのコミュニケーションを学ぶ						
到達目標	○オリジナル楽曲の制作・配信 ○デモ制作からプリプロ・完パケレベルを目指す上で必要な工程の学習 ○必要に応じた編集・ミックス・簡易マスタリングの習得						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率の達成度合い) ○各自授業課題の提出 ○各生徒の目標に応じた成果物のチェック(アーティストであれば事務所提出用ポートフォリオ。ネットアーティストであれば自身のチャンネル投稿用の作品)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・授業説明・機材紹介	機材についてレポート作成
2		講義・演習	プロフィールシート作成	プロフィールシートの作成続き
3		講義・演習	制作スケジュールシートの作成目標に向けた課題の発見	制作シートスケジュールの作成
4		講義・演習	制作スケジュールシートの作成目標に向けた課題の発見	目標に向けた課題の構想
5		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
6		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
7		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
8		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
9		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
10		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
11		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
12		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・制作チームの編成
13		講義・演習	前期振り返り学習・前期総括	後期に向けたスケジュールの確認
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンサートテクニック(6) (チーム制作プロジェクトA(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	岡秀樹
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。						
到達目標	企業プロジェクトでは動員や収益など内容だけでなく収支にも着目し、数字をクリアするための方法論を検討し実践する。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価 40% 収支を測る方法論を理解し、現場での実行力を評価 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	企業プロジェクト①(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。
2		講義・演習	企業プロジェクト②(プロジェクト企画書/プロモーションプランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する。
3		講義・演習	企業プロジェクト③(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。(図面、セット図、セトリストなど)
4		講義・演習	企業プロジェクト④(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
5		講義・演習	企業プロジェクト⑤(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。
6		講義・演習	自主企画①(班分け/アイデアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。
7		講義・演習	自主企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。
8		講義・演習	自主企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。
9		講義・演習	自主企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	印刷業者・グッズ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セトリストなど)
10		講義・演習	自主企画⑤(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。
11		講義・演習	自主企画⑥(運営シミュレーション)口	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。
12		講義・演習	自主企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
13		講義・演習	自主企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
都度必要に応じて自作プリント配布				

科目名	コンサートテクニック(6) (チーム制作プロジェクトB(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。						
到達目標	企業プロジェクトでは動員や収益など内容だけでなく収支にも着目し、数字をクリアするための方法論を検討し実践する。						
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価 40% 収支を測る方法論を理解し、現場での実行力を評価 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	企業プロジェクト①(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。
2		講義・演習	企業プロジェクト②(プロジェクト企画書/プロモーションプランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する。
3		講義・演習	企業プロジェクト③(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。(図面、セット図、セトリストなど)
4		講義・演習	企業プロジェクト④(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
5		講義・演習	企業プロジェクト⑤(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。
6		講義・演習	自主企画①(班分け/アイデアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。
7		講義・演習	自主企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。
8		講義・演習	自主企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。
9		講義・演習	自主企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	印刷業者・グッズ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セトリストなど)
10		講義・演習	自主企画⑤(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。
11		講義・演習	自主企画⑥(運営シミュレーション)口	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。
12		講義・演習	自主企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み 各メンバーで打ち合わせ
13		講義・演習	自主企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
都度必要に応じて自作プリント配布				

科目名	コンサートテクニック(6) (チーム制作プロジェクトC(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大島直子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を学習する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験学習する						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されても対応できる基礎知識を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施時における様々な事象の対応力を 習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要なレベルの実務力を習得する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	活動方針設定会議の概要を学ぶ	会議資料準備
2		講義・演習	ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	打合せ準備資料の作成
3		講義・演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	イベント実施打合せ・プロモーション
4		講義・演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
5		講義・演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
6		講義・演習	ライブイベント実施に向けて(打合せ)]を学ぶ	ライブ映像の編集処理
7		講義・演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ学ぶ	運営マニュアルの作成
8		講義・演習	ライブイベント実施[QUEENS]]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入
9		講義・演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	イベント実施打合せ・プロモーション
10		講義・演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
11		講義・演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入
12		講義・演習	ライブイベントの内容企画を学ぶ	企画書の作成・イベント企画打合せ
13		講義・演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	運営マニュアルの作成
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンサートテクニック(6) (チーム制作プロジェクトD(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	高橋涼
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	チームでの制作における技術の習得 ○自身の歌唱・演奏を自身で録音し、デモを作成する技術の習得 ○プリプロ・完パケ音源の制作に必要な準備 ○レコーディングを経て、ディレクター・プロデューサーとのコミュニケーションを学ぶ						
到達目標	○オリジナル楽曲の制作・配信 ○デモ制作からプリプロ・完パケレベルを目指す上で必要な工程の学習 ○必要に応じた編集・ミックス・簡易マスタリングの習得						
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率の達成度合い) ○各自授業課題の提出 ○各生徒の目標に応じた成果物のチェック(アーティストであれば事務所提出用ポートフォリオ。ネットアーティストであれば自身のチャンネル投稿用の作品)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期復習および後期制作に向けて説明	後期の制作構想
2		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
3		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
4		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
5		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
6		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
7		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
8		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
9		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
10		講義・演習	スケジュールに沿った制作課題に応じた個別カウンセリング	作曲・編曲・レコーディング
11		講義・演習	録音成果物の編集・Mix	提出作品の用意
12		講義・演習	作品の提出・試聴会	レポート提出
13		講義・演習	後期総括	レポート提出
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンサート演出研究 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1) 最先端のコンサート演出、情報を知る。 2) 最先端の情報の収集が出来るようになる。 3) 海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験 (%) : 50% 2. 課題提出 (%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	最先端コンサートに興味を持つ	最先端のコンサートについて復習レポートを作成。
2		講義・演習	4/19-21のコーチェラフェスティバルを振り返る	コーチェラフェスティバルについて調べてレポートを作成。
3		講義・演習	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう1995-2004、2022	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
4		講義・演習	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2005-2013、2021	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
5		講義・演習	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2014-2020	近代コンサートについて調べてレポートを作成。
6		講義・演習	コンサートとは何か？なぜ行うのか？を考える	授業内容について復習レポートを作成。
7		講義・演習	みんなのオススメコンサート演出の共有(1)	オススメコンサートの資料を準備する。
8		講義・演習	U2を中心に近代の演出考察	U2というバンドについて調べてレポートを作成。
9		講義・演習	BrunoMars/2017-2018 TOURを中心に近代の演出考察	BrunoMarというバンドについて調べてレポートを作成。
10		講義・演習	みんなのオススメコンサート演出の共有(2)	オススメコンサートの資料を準備する。
11		講義・演習	海外フェス演出	海外フェスについて調べてレポートを作成。
12		講義・演習	イベントスタッフとして演出を学ぶ①	イベントの演出についてレポートを作成。
13		講義・演習	イベントスタッフとして演出を学ぶ②	イベントの演出についてレポートを作成。
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	コンサート演出研究 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情の歴史を知り、考察することで、 新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる。 1) 最先端のコンサート演出、情報を知る。 2) 最先端の情報の収集が出来るようになる。 3) 海外コンサートの実態を知る。						
到達目標	最先端のコンサートを知ること、未来を創ることができるスタッフを目指す。						
評価方法と基準	1. 実技試験 (%) : 50% 2. 課題提出 (%) : 50%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	現在のアメリカコンサート事情	現在のアメリカコンサート事情について復習レポートを作成。
2		講義・演習	Drake/2018、the carters/2018、Travis Scott/2019などHIP-HOP	HIP-HOPについて調べてレポートを作成。
3		講義・演習	THIS IS ITでMichel Jacksonを知る	Michel Jacksonについて調べてレポートを作成。
4		講義・演習	INTER BEE見学(開催日によって前後あり)	INTER BEEを調べてレポートを作成。
5		講義・演習	MADONNA、JanetなどのGIRL'S POPクラシック	MADONNA、Janet
6		講義・演習	Areana、Katy、Taylor、GagaなどのGIRL'S POP最先端	Areana、Katy、Taylor、Gaga
7		講義・演習	IDOL(日本除く)コンサート	IDOL(日本除く)コンサート
8		講義・演習	コンサート機材最新情報(Lighting & Sound Americaを使用)	コンサート機材最新情報
9		講義・演習	オリンピック開会式演出(平昌2018、日本2021)	オリンピック開会式演出(平昌2018、日本2021)
10		講義・演習	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション
11		講義・演習	最新コンサート情報についての考察(1)	授業内容の復習レポートを作成。
12		講義・演習	最新コンサート情報についての考察(2)	授業内容の復習レポートを作成。
13		講義・演習	Superbowl 振り返り。復習試験。	Superbowl についてレポートを作成。
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			授業に向けて事前調べと資料の準備、授業内容の復習レポートを作成。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	舞台知識 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	江見千尋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	劇場や舞台の機構、使用する物の名称や使い方、仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	学生は、舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法と基準	レポート課題提出 30% 筆記による舞台知識を測る期末試験の得点で 評価 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	舞台用語を習得する。	習った舞台用語を復習し、覚える。
2		講義・演習	劇場/舞台という空間についての知識を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
3		講義・演習	劇場やホールの種類と形状を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
4		講義・演習	搬入・搬出方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義・演習	吊りものの種類を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
6		講義・演習	吊り方の理論を習得する。	舞台平面図にボタン位置を記入する
7		講義・演習	照明卓の操作方法を習得する。	舞台断面図に照明ボタンを記入する
8		講義・演習	幕の吊りものの種類を取得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
9		講義・演習	幕の吊り方・照明のシュートの作業方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義・演習	緞帳の操作方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
11		講義・演習	舞台道具(箱馬・平台)の説明や使い方を習得する。	平台、箱馬などを図面化する
12		講義・演習	舞台道具(トラス・ボタン)の説明や使い方を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
13		講義・演習	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック				

科目名	舞台知識 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	江見千尋
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	運営・制作以外の裏方の仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習し身につけることで実際の現場に入っても他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスムーズな業務を遂行できるようになる。						
評価方法と基準	舞台知識を問う課題提出 30% 知識を活かし、進級制作展への積極的な参加により、コミュニケーションを図り仕事が円滑に出来たかを演習を通して評価 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	舞台装置の種類と効果を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
2		講義・演習	舞台美術で使用する道具について習得する	教室の平面図を作成する
3		講義・演習	舞台の空間認識について習得する	舞台美術を自分自身でプランする
4		講義・演習	舞台の寸法・縮尺の知識について習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義・演習	舞台で使用する図の解釈と使用方法を習得する	教室の平面図を作成する
6		講義・演習	舞台の流れ(段取り・音響の流れに関して)を習得する	PAエンジニアから「明日への扉」時の流れを聞かれポートにて提出
7		講義・演習	音響が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
8		講義・演習	舞台の流れ(段取り・照明の流れに関して)	照明スタッフから「明日への扉」時の流れを聞かれポートにて提出
9		講義・演習	照明が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義・演習	舞台の流れ(段取り・舞台監督の流れに関して)	舞台制作から「明日への扉」時の流れを聞かれポートにて提出
11		講義・演習	舞台監督が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
12		講義・演習	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
13		講義・演習	進級制作展で使用する実際の図面や資料を見て流れを舞台の流れを習得する。	進級制作展の図面資料を元にレポートの作成。
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。	
【使用教科書・教材・参考書】				
「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック				

科目名	生楽器知識 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。						
到達目標	リズムセクションと金管楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 リズムセクションと金管楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 リズムセクションと金管楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしっかりと正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。振り返りと自習	
2		講義・演習	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、奏法について説明できる。振り返りと自習	
3		講義・演習	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習	
4		講義・演習	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返りと自習	
5		講義・演習	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、役割について説明できる。振り返りと自習	
6		講義・演習	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)振り返りと自習	
7		講義・演習	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。振り返りと自習	
8		講義・演習	シンガー:男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。	シンガー:男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。振り返りと自習	
9		講義・演習	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
10		講義・演習	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
11		講義・演習	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
12		講義・演習	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。		
【使用教科書・教材・参考書】					
参考書として:「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)					
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷					

科目名	生楽器知識 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	一年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリの技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエンジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾度となく訪れると信じます。						
到達目標	木管楽器と弦楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 木管楽器と弦楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 木管楽器と弦楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしっかりと正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記60% 実技40%)						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	木管楽器1:サクソの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器1:サクソの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
2		講義・演習	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
3		講義・演習	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
4		講義・演習	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
5		講義・演習	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
6		講義・演習	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
7		講義・演習	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
8		講義・演習	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
9		講義・演習	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
10		講義・演習	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習	
11		講義・演習	その他の楽器2:三味線の歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	次週のプレゼンテーションに向けた各自まとめ作業	
12		講義・演習	後期に学習した各楽器をふりかえり、学習した内容を各自がまとめプレゼンテーションをおこなう。	試験に向けた振り返りと自習	
13		講義・演習	テスト	テスト	
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
準備学習 時間外学習			リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。		
【使用教科書・教材・参考書】					
参考書として:「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)					

科目名	マーケティング概論(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	研井 陽介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンターテインメントの「マーケティング」というカテゴリーに向き合う。 偏っていない自由な発想、立場によって異なる考え方、人間を相手にする事の難しさ、そんな事を「アーティスト」という言葉を切り口に実際に業界で活躍する方を参考に学んでいく。						
到達目標	アーティストに関連するもの(ライブ・音源・グッズ)が売れる仕組みについて考えられるようになり、 アーティストという「人間」を対象としてマーケティングを行う大変さがわかるようになる。						
評価方法と基準	1)定期テスト80% 2)平常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「考え方」を学ぶという考え方	この授業で学ぶべきことを明確にする。 「答えがない問題」との向き合い方について考える。
2		講義・演習	【実例①1/4】一つのライブイベントを制作する事	6月29日に実施する弊社イベントについて(概論)
3		講義・演習	チケットの価値と顧客の差別化	ビジネスとしてのプレミアムシートの推奨(ファーストクラス/エコノミーシートの構造について)
4		講義・演習	【実例①2/4】一つのライブイベントが決まるまでの流れ	6月29日に実施する弊社イベントについてのライブ制作の受注方式について
5		講義・演習	売れない、伸びない、赤字が前提。ライブのマイナス構築	ライブ予算の間違った組み方。何の為にライブをやっているのかを明確に考える。
6		講義・演習	【実例③3/4】一つのライブイベントの内容をまとめる	6月29日に実施する弊社イベントを素材にした実際の進め方
7		講義・演習	アイディアと現実化の接点	演出家の意味、マネジメントのライブへの向き合い方を理解する。
8		講義・演習	【実例④4/4】一つのライブイベントが評価される	6月29日に実施する弊社イベントの成功／失敗を分けるポイント
9		講義・演習	コストカットの本音	安く仕上げる事が、無価値という矛盾を知り、現在のコンサートを考察する。
10		講義・演習	【実例特別編】	ライブイベントを終えて／総括
11		講義・演習	音楽ビジネスと著作権との接点	ビジネスにおける著作権の位置付けとACPCの存在を理解する。
12		講義・演習	【実例特別編】	予算の精算の方法→「第2回目」を実現する判断
13		講義・演習	屋外型音楽フェスと通常コンサートの違い	地方創生・補助金・特性など絡まる複数の要素を理解する。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	マーケティング概論(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	研井 陽介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	60 4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンターテインメントの「マーケティング」というカテゴリーに向き合う。偏っていない自由な発想、立場によって異なる考え方、人間を相手にする事の難しさ、そんな事を「アーティスト」という言葉を切り口に実際に業界で活躍する方を参考に学んでいく。						
到達目標	アーティストに関連するもの(ライブ・音源・グッズ)が売れる仕組みについて考えられるようになり、アーティストという「人間」を対象としてマーケティングを行う大変さがわかるようになる。						
評価方法と基準	1)定期テスト80% 2)平常点20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	最新ツールの導入タイミング	多世代との対峙と分析、グレー層に向けての発信方法とブルーオーシャンという言葉を理解しよう。
2		講義・演習	【実例②2/5】ライブを作ってみる・・・というリスク	「ライブを作ってみる」という事に対して、どのように向き合うべきなのか？
3		講義・演習	マーケティングと根性論	効率化の限界と根性論の効率化とスマートにすると生まれる反発を考察する。
4		講義・演習	【実例②3/5】ライブを本当に作ってみる？	「ライブを作ってみる」にどの程度の興味を持てるのか？
5		講義・演習	ゼロからの構築	模倣の意味と先達への敬意新規格の創出という誤認識の理解
6		講義・演習	【実例④4/5】ライブを宣伝してみる	ライブイベントの宣伝方法、ルーティーンと革新的アイデア
7		講義・演習	ブランディングを考える	分析と解析をし、ブレない・成長するかつこよさを考える。
8		講義・演習	【実例②5/5】ライブの軸を見直す	総合的に理にかなっているのかを考えてみる
9		講義・演習	クリエイティブを考える	創作に対する向き合い方とジグソウの特性を理解し分析する。
10		講義・演習	【実例特別編】	ライブを作ってみた／その意味と意義
11		講義・演習	プロモーションを考える	誇大広告の必要性和、現代のプロモーションを理解する。
12		講義・演習	【実例特別編】	ライブを本気で反省してみた／どこまで考えるべきだったか？
13		講義・演習	後期まとめ①	今までの講義内容を改めて理解する
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ビジネス基礎（5）	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	関口陽介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	現代は、今までの常識や成功事例が通用しないVUCA（Volatility/変動性、Uncertainty/不確実性、Complexity/複雑性、Ambiguity/曖昧性）の時代。特に、学生が将来にわたってキャリア形成を考えるプロセスにおいては、教科書的知識では対応不可能。よって、本講義では、現実の職業生活に関する広範な知識の提供と、自ら考える習慣・態度の形成を目的とする。また、近年一般的になってきているリモートコミュニケーションを、授業内でのワーク、発表などを通じ実践する機会を設ける。講義全体を通して、理論に加えて、具体的な事例を多数取り上げることで、社会生活に容易に展開できる構成とする。						
到達目標	①キャリアデザインの概念を理解し、自身の価値観や職業観を知る ②キャリアデザインにおける様々な視点を学び、自身のキャリアに活用できるようになる ③自身のキャリアデザインの実現に向けて行動できるようになる ④オンラインコミュニケーションの実践、習得 ⑤社会に出る際に、役立つ知識の習得						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、講義の目的や達成レベルを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
2		講義・演習	“働き易い会社”とは。その特徴を事例から学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
3		講義・演習	組織の部門構成や機能を事例を基に理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
4		講義・演習	“企業”研究の方法として、具体的な調べ方を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
5		講義・演習	実在する企業を研究対象として、調べ、発表する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
6		講義・演習	エンプロイアビリティとは。自らの市場価値を理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
7		講義・演習	グローバル人材とは。具体的な活動事例から学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
8		講義・演習	“転職”に関し、メリット・デメリットを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
9		講義・演習	“起業”とは。具体的な活動事例から学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
10		講義・演習	オンラインコミュニケーションを体験しながら、学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
11		講義・演習	学生時代にやるべきことを理解し、行動する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
12		講義・演習	試験・レポート課題	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
13		講義・演習	これまでの授業のまとめ、質問と回答	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。	
【使用教科書・教材・参考書】				
使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。				

科目名	ビジネス基礎（6）	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	関口陽介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 （単位）	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	現代は、今までの常識や成功事例が通用しないVUCA（Volatility/変動性、Uncertainty/不確実性、Complexity/複雑性、Ambiguity/曖昧性）の時代。特に、学生が将来にわたってキャリア形成を考えるプロセスにおいては、教科書知識では対応不可能。よって、本講義では、現実の職業生活に関する広範な知識の提供と、自ら考える習慣・態度の形成を目的とする。また、近年一般的になってきているリモートコミュニケーションを、授業内でのワーク、発表などを通じ実践する機会を設ける。講義全体を通して、理論に加えて、具体的な事例を多数取り上げることで、社会生活に容易に展開できる構成とする。						
到達目標	①キャリアデザインの概念を理解し、自身の価値観や職業観を知る ②キャリアデザインにおける様々な視点を学び、自身のキャリアに活用できるようになる ③自身のキャリアデザインの実現に向けて行動できるようになる ④オンラインコミュニケーションの実践、習得 ⑤社会に出る際に、役立つ知識の習得						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	働く上で必要となる能力“職業人能力”について学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
2		講義・演習	将来にわたって理解すべき、“お金”について学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
3		講義・演習	アート系エンターテインメント施設訪問	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
4		講義・演習	事例解説／アート系エンターテインメント施設の運営	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
5		講義・演習	自分史の作成を通して、自身の特性を理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
6		講義・演習	適職診断ツールの活用を通して、職業選択を考える	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
7		講義・演習	ネット社会におけるマナー・ルールを学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
8		講義・演習	仕事と生活の調和『ワークライフバランス』を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
9		講義・演習	メンタルヘルスを学び、こころの健康について考える	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
10		講義・演習	人生100年時代のライフデザインについて考える	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
11		講義・演習	働く視点で、Society5.0/SDGsを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
12		講義・演習	試験・レポート課題	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
13		講義・演習	これまでの授業のまとめ、質問と回答	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。	
【使用教科書・教材・参考書】				
使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。				

科目名	キャリアデザイン(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	関口陽介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。						
到達目標	講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、講義の目的や達成レベルを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
2		講義・演習	マーケティング基礎 その1 "4つのP"を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
3		講義・演習	マーケティング基礎 その2 "STP"を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
4		講義・演習	マーケティング基礎 その3 "3C分析"を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
5		講義・演習	戦略的情報発信 広報(PR)を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
6		講義・演習	イノベーションを起こす"デザイン思考"を身に着ける	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
7		講義・演習	飲食ビジネスの仕組みを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
8		講義・演習	成功企業の事例解説(ファッションブランド)	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
9		講義・演習	成功企業の事例解説(エンターテインメント企業)	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
10		講義・演習	成功企業の事例解説(興行ビジネス)	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
11		講義・演習	情報爆発時代のメディアリテラシーを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
12		講義・演習	試験・レポート課題	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
13		講義・演習	これまでの授業のまとめ、質問と回答	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。	
【使用教科書・教材・参考書】				
使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。				

科目名	キャリアデザイン(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	関口陽介
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	2020年からのコロナ禍に直面し、社会全体が史上まれにみるパラダイムシフト(枠組みの大転換)に見舞われた。特に、エンターテインメントビジネスへの影響は計り知れない。本講座は、こうした時代背景をとらえ、社会を生き抜き、かつ、将来的にビジネスに関わっていく上で、知っておくべき基本的な知識や今日の話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマに関し学び、かつ、興味をもって接する態度・習慣を育成する。講義全体を通して、多様な講師のビジネスキャリアを反映した具体的な事例を多数取り上げることで、学んだことが実ビジネスへ容易に展開できる構成とする。						
到達目標	講義で紹介される、社会やビジネス全般にわたる今日の話題を理解し、興味をもって接することができる。且つ、取り上げられたテーマに関して、自分なりの意見を持って、発言・記述できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ガイダンス、講義の目的や達成レベルを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
2		講義・演習	マーケティング基礎 その1 "4つのP"を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
3		講義・演習	マーケティング基礎 その2 "STP"を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
4		講義・演習	マーケティング基礎 その3 "3C分析"を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
5		講義・演習	戦略的情報発信 広報(PR)を学ぶ	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
6		講義・演習	イノベーションを起こす"デザイン思考"を身に着ける	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
7		講義・演習	飲食ビジネスの仕組みを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
8		講義・演習	成功企業の事例解説(ファッションブランド)	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
9		講義・演習	成功企業の事例解説(エンターテインメント企業)	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
10		講義・演習	成功企業の事例解説(興行ビジネス)	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
11		講義・演習	情報爆発時代のメディアリテラシーを理解する	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
12		講義・演習	試験・レポート課題	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
13		講義・演習	これまでの授業のまとめ、質問と回答	配布資料の復習、疑問点に関する質問準備
14		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			講義後資料を復習し、不明点を自ら調べる。または、次回講義で質問する習慣を身につける。	
【使用教科書・教材・参考書】				
使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。				

科目名	Global Communication (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	be動詞(am, are)を使って自己紹介(国籍や出身)する、または出身地を尋ねる会話を練習する、疑問代名詞(who)を使って自分の個人情報を尋ねる、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	新しい人に出会う」 be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	be動詞(are)を使って家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、希望や意志について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak: 前期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Global Communication (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	池末信
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	120 8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。						
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解し、用いることもできる。 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報について、質問をしたり、答えたりできる。会話相手がゆっくり、はっきりと話して、サポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることができる。						
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義・演習	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・演習	[Can / Can't] (能力) を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can't] (可能性) を使って、職場や学校でできること、できないことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・演習	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義・演習	[this] と [these] を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to] を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・演習	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・演習	[be going to] を使って、週末のアウトドア（野外）プランについて話す、[be going to]（疑問文）を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義・演習	夕方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・演習	ロールプレイ・プレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期発表と運動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・演習	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義・演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義・演習	Time to Speak: 後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(5) (韓国語Basic(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	数字を数える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	過去形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	韓国映画を見る	日本語字幕で鑑賞
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(5) (韓国語Entry(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介・目標設定・関心事	ハングルの仕組み知る
2		講義・演習	ハングル文字を覚える	書き方、覚える方法を知る
3		講義・演習	教科書とワークブックを活用	プリント配布
4		講義・演習	リスニングスキルを身につける	CD、Netflix,YouTubeで学習する
5		講義・演習	ペアで学習ができる	会話練習をする
6		講義・演習	韓国の文化を知る	日本の文化との違いを学習する
7		講義・演習	趣味、関心事について作文、発表	授業中に作文、発表する
8		講義・演習	食べ物、映画、ドラマについて話す	宿題として前もって作文してもらう
9		講義・演習	否定・賛成表現を練習する	単語を使って文章を作る練習
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習をする
11		講義・演習	可能形を学習する	文法を活用して話す練習をする
12		講義・演習	ゲームをしながら学習する	日記の宿題を出す
13		講義・演習	時間・日程・数字を練習する	書きながら暗記するように進行
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級1, 2、ワークブック、プリント、イラストとゴロで覚える韓国語				

科目名	韓国語(5) (韓国語Advance(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	自己紹介を書く。
2		講義・演習	初級Ⅱの復習をする。	プリントで練習する。
3		講義・演習	性格について	学んだ文法の練習をする。
4		講義・演習	発表会	発表した作文を直す。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	買い物をする。	作文をする。
7		講義・演習	発表会と会話	学んだ文法の練習をする。
8		講義・演習	手紙を書く。	作文をする。
9		講義・演習	-아/어 있다	学んだ文法の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
12		講義・演習	-(으)ㄴ/는/(으)ㄹ 것 같다	学んだ文法の練習をする。
13		講義・演習	CDを聴く。	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅱ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(5) (韓国語Opcional(5))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) ハングルの表記を覚える。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	自己紹介、目標設定	プリントで練習する。
2		講義・演習	基本母音を知る。	書く練習と発音の練習をする。
3		講義・演習	子音 + 母音 の組み合わせを読む。	書く練習と単語を覚える。
4		講義・演習	激音について	書く練習と発音の練習をする。
5		講義・演習	濃音について	書く練習と発音の練習をする。
6		講義・演習	バッチム	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
7		講義・演習	合成母音	書く練習と発音の練習、単語を覚える。
8		講義・演習	発音の変化	発音の練習をする。
9		講義・演習	簡単な会話	会話の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	単語や簡単な会話を覚える。
11		講義・演習	-입니다 / -입니까?	文章を作る練習をする。
12		講義・演習	韓国語で自己紹介をする。	自己紹介を書く。
13		講義・演習	発表会と話し合い	聴いて書く。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				
できる韓国語初級Ⅰ & ワークブック、プリント。				

科目名	韓国語(6) (韓国語Basic(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(6) (韓国語Entry(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	李美姫
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、会話スキルをアップする ②実用的なコミュニケーションができるように話す力を身につける ③教科書で勉強したものを生かして活用できるようにペア又はグループで練習したり発表する						
到達目標	①韓国語で日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せるようにする ③韓国語に対して抵抗感、違和感、恐怖心を持たないようにする						
評価方法と基準	1) 定期試験80% 2) 出席数 10% 3) 態度 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	勉強したいことを聞く・後期の目標設定	予習と復習することの大切さを話す
2		講義・演習	憧れの存在について話し合う	副教材を利用する
3		講義・演習	スポーツについて話し合う	プリント配布
4		講義・演習	感情・関係について話し合う	辞書・翻訳機の使い方を教える
5		講義・演習	旅行・行きたいところについて話し合う	ペアの相手と話し合う
6		講義・演習	最新ニュース、記事を学習する	調べて書いてきてもらう
7		講義・演習	身体・美容について学習する	ネット検索をしてもらって作文を書く
8		講義・演習	地理・国名について学習する	韓国の地理と世界について学習
9		講義・演習	天気・植物について学習する	テスト準備を呼びかける
10		講義・演習	定期試験	試験前に復習を行う
11		講義・演習	季節・気分について学習する	前に出て発表してもらう
12		講義・演習	トレーニング・運動について学習する	ペアを組んで練習する
13		講義・演習	乗り物・歴史について学習する	1年を振り返る
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(6) (韓国語Advance(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の社会や文化について学ぶ。						
到達目標	1) 適切なコミュニケーションができるようになる。 2) 韓国の社会や文化について理解を深める。 3) 意思を伝達することができるようになる。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	復習する。
2		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
3		講義・演習	설날とお正月	長文の作文をする。
4		講義・演習	韓国と日本の違い	会話の練習をする。
5		講義・演習	TOPIK	TOPIKの練習する。
6		講義・演習	집들이について	招待状を書く。
7		講義・演習	CDを聞く。	聴いて書く。
8		講義・演習	学生としての生活について	長文の作文をする。
9		講義・演習	キーボードの使い方	ハングルでメールを送る。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	最新のニュース	ニュースの内容を書く。
12		講義・演習	自分将来について	夢の作文
13		講義・演習	一年間の振り返り	意思表現をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	韓国語(6) (韓国語Opcional(6))	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	徐慧精
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1) 韓国語のスキルをアップする。 2) ペアやグループで会話の練習をする。 3) 韓国の文化について学ぶ。						
到達目標	1) 会話の練習を通して、簡単な挨拶や自己紹介ができるようになる。 2) 言葉を学ぶことで、韓国の社会や文化に対する関心を高める。						
評価方法と基準	1) 定期試験 60% 2) 出席 10% 3) 授業準備 10% 4) 授業態度 10% 5) 課題 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	前期の復習をする。	プリントでの復習。
2		講義・演習	-이 / 가 아닙니다.	否定文の練習をする。
3		講義・演習	職業について	会話の練習をする。
4		講義・演習	部屋の中を観察してみよう。	新しい単語を学ぶ。
5		講義・演習	簡単な質問ができる。	相手の話を聞いて返答をする。
6		講義・演習	家族関係が分かる。	文章を作る。授業内容の復習をする。
7		講義・演習	地名や場所名を覚える。	プリントで単語を覚える。
8		講義・演習	約束について会話する。	会話の練習をする。
9		講義・演習	位置に関する説明ができる。	作文の練習をする。
10		講義・演習	定期試験	復習をする。
11		講義・演習	動画をみて見よう。	聴いて書く練習をする。
12		講義・演習	学んだ単語を確認しよう。	学んだ単語の復習をする。
13		講義・演習	一年間を振り返る。	会話の練習をする。
14		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			予習・復習・日記・作文を書く	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	日本語講座 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。						
到達目標	1. 日本の企業や業界について理解する。 2. OB・OG訪問やインターンシップを通じて日本での就業を体験し、就職への具体的なイメージを掴む。 3. 日本語で履歴書が書けるようになる。 4. 面接に対応できる日本語力やビジネスマナーを身に付ける。 5. 日本語能力試験N1への合格、または同等の日本語力を身につける。						
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)と前期・後期末試験について、 (1)論理性 (2)独自性 (3)正確性 (4)表現力 (5)意欲 の観点から評価						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義・演習	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義・演習	業界研究 調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・演習	業界研究 調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義・演習	企業研究 調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義・演習	N1の試験についての心構え～ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義・演習	レベルチェックテスト(20～30分)テスト答え合わせ解説 N1 状況状態に関する語彙	建前、矛盾 チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
9		講義・演習	N1文法 導入文型 ～とあって、～ならではの、～にもまして、～からして 例文作成、会話練習 N1語彙 人を見て思う感情表現語彙	あさましい めざましい 根拠り業掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
10		講義・演習	N1文法 導入文型 ～を余儀なくされる ～たりとも ～きらいがある ～あつての 例文作成会話練習 N1相手を気遣う語彙	あいにく 何気ない 独自の などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
11		講義・演習	N1文法 導入文型 ～をよそに ～なりに ～ないでもない ～すら～なかった 例文作成、会話練習 N1困惑する感情の語彙 実践問題	不審な 閉口する 反発する などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
12		講義・演習	N1文法 導入文型 文法～とは(驚き)～がはやいか ～そばから ～ずにはおかない 例文作成、会話練習 N1時間 時期の語彙 。夏休みに向けて	適宜、時折 古参の などの語彙を使う状況を挙げ例文作成 読解問題宿題。夏休み課題の取り組み
13		講義・演習	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	日本語講座 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	神田智子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし、特に出題されやすい接続詞を抜粋して導入、定着を目指す。併せてすべての基礎となる語彙力向上も目標とする またN1レベルの文法や語彙の使い分けも身につける * 講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力を前提に積極的に会話練習を行う * わかりやすく導入するために例文提示と例文作成を行う						
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるようにする 3. 実際に使える語彙を増やす 読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期 期末試験の得点 2・N1レベル文法の習得度 N1レベル語彙の実践問題 正解率 3・出席率 授業態度 以上を基準として総合的に評価する						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	N1文法 導入文型 ～ともなると ～もさることながら ～に即した ～を置いて他にない 例文作成、会話練習 N1相手に対応する語彙	報いる 用心する 勘違い などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
2		講義・演習	N1文法 導入文型 ～までもなく ～いかに ～とは言えないまでも ～とい～とい～ 例文作成、会話練習 N1将来未来の語彙	果てしなく 遠からず 粘り強く などの語彙を使う状況を考え 例文作成 読解問題宿題
3		講義・演習	N1文法 導入文型～のをいいことに ～にもほどがある ～ならまだしも ～以前の 例文作成、会話練習 N1物に働きかける語彙	活性化 正常化 目に見えて などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
4		講義・演習	N1文法 導入文型 ～たら～たで ～ようものなら ～ならいざしらず ～にこしたことはない 例文作成、会話練習 N1経済の語彙	不況 不振 盛況などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
5		講義・演習	N1文法 導入文型～とはいえ ～といったところだ ～に～ない ～にかこつけて 例文作成、会話練習 N1仕事の語彙	打ち込んでいる 立て込んでいる 乗り切る などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
6		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 語彙	文法例文作成 + 読解問題宿題
7		講義・演習	N1模擬試験問題 語彙 漢字	語彙例文作成 + 読解問題宿題
8		講義・演習	N1模擬試験問題 文法 漢字	文法例文作成 + 読解問題宿題
9		講義・演習	N1試験対策	レポート提出
10		講義・演習	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	レポート提出
11		講義・演習	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義・演習	企業に入ってからのこと。OB OGIに聞きたいこと。	レポート提出
13		講義・演習	1年のまとめをプレゼンテーションする。	レポート提出
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学習 時間外学習			反復練習を通して身につける	
【使用教科書・教材・参考書】				